

北星高生と住民 合同避難訓練

「要支援者役」をリヤカーで運搬

富田地区で初 遺跡公園まで1.3キロ歩く

南海トラフ地震による津波に備えるため、四日市市茂福の北星高校と地元富田地区の住民が十一日、初の合同避難訓練を行った。生徒は要支援者役の住民をリヤカーや車いすで運びながら、高台にある久留信官衛遺跡公園を目指した。

(片山さゆみ)



要支援者役の住民をリヤカーで運びながら公園を目指す生徒ら＝四日市市茂福で

同校は津波浸水想定区域より内陸側にあるが、避難を推奨する「津波避難目標ライン」よりは海側にある。災害時、指定避難所である同校に近隣住民が集まることが想定される。生徒たちが率先して避難を誘

導できるよう、学校側が地域と協力して防災教育に力を入れてきた。県や市と協議し、二〇二二年に公園を二次的な避難先とすることに決定。合同訓練はコロナ禍や天候不順で延期となっており、ようやく実現した。

定時制午前部の約九十人と、住民約五十人が参加。午前九時、南海トラフを震源とする震度6強の地震が発生したと想定。校内に緊急地震速報が流れ、生徒らは机の下に身を隠した。校外に出て、住民とともにあぜ道や住宅街を抜けて約一・三キロ離れた公園を目指した。要支援者役の住民二人を二台のリヤカーにそれぞれ乗せ、交代しながら運んだ。公園敷地内に入ると車いすに乗り換え、公園の上を通る北勢バイパスの高架下を集まった。公園内では、市の学芸員から過去の地震の歴史や、遺跡についての説明を聞いた。

三年生の岩崎夢人さん

外にも地域と連携した組みを広げ、平常時から係性を築いていきたい話した。

「チャットGPT」活用法を学べます
四日市で24日セミナー
対話型人工知能(AI「チャットGPT」)の基本的な使い方や、ビジネスの活用法などを学ぶセミナーが二十四日、四日市市原町の結婚式場「オールアンジェ四日市」で開かれる。

富田地区連合自治会の岡山厚志会長(右)は「若い世代はやはり体力もパワーもあると実感した。災害時に力を貸してくれると心強い」と振り返った。担当した坂田広峰教諭は「防災以

作品展

◆5月の骨董(しつとつ)展 13日(土)までの前10、後5、四日市市千代田町の目黒陶芸館本館(旧平田邸) 059-(365)0332。
古伊万里の茶わんや漆器、掛け軸など美術品約150点を展示販売。「萬古盛絵の鬼才・山田東華作品展」を同時開催する。

◆手づくり作品展即売会「第31回手づくりの贈り物」14日(日)までの前10、後1ムもある。

情報ナビ

991。四日市市の木村哲さんが、淡い色の水彩や光のあるアクリルで描いた花絵約90点を展示販売。陶額入れた作品もある。水曜、3、4火曜定休。

◆露光窯元感謝祭 12(金)14日前10、後5。日市市西坂部町の露光窯ギャラリー 059-(332)222。英国の陶芸祭にも加経験のある四日市市の陶作家、冬柴文広さんの萬古焼の品約200点を展示。冬柴さんの作品がもらえるグッズも。